

## I 2016 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

### 【2016 年度大学評価結果総評】

FD 推進センターでは、「学生による授業改善アンケート」の Web 化による回答率低下という問題について、複数の現実的に可能なかぎりの施策を行っており、2015 年度大学評価委員会による評価結果への対応は行われている。ただし回答率自体は、アンケートがこれまで果たしてきた役割に見合うほどには回復しなかったため、2017 年度春学期に実施するアンケートから抜本的な変更を提案するという今後の対応を含め、十分な対応を行ったものと評価できる。今度も継続して各 FD プロジェクトと「学生による授業改善アンケート」の成果に期待したい。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、「カリキュラム・フレームワーク」の修正および各分野の再配置案がまとまり、2015 年度大学評価委員会による評価結果への対応は充分であると認められる。今後は関連する各学部の承認を得て、2017 年度から実施できる具体的な内容が検討され、目的とするカリキュラムの体系化が適切に協議されることが望まれる。

小金井リベラルアーツセンターでは、「国際化に対応できる英語力の強化」についてカリキュラム変更の可能性も含めて協議が継続しており、また「理系基礎科目の点検・強化」については現状を把握する点検作業が進められている。2015 年度大学評価委員会による評価結果への対応は充分行われているが、今後も対応を継続し「国際化に対応できる英語力の強化」と「理系基礎科目の点検・強化」においてより具体的な施策の検討が行われることを期待したい。

学習環境支援センターでは、部局職員による「相互連携の創意工夫」が可能な組織文化を生かし、ピアネットの可視化など学生の学習環境支援を充実する活動を行い、市ヶ谷キャンパスの「校舎建替え工事」についても適切な動線確保に尽力しており、2015 年度大学評価委員会による評価結果への対応状況は高く評価できる。今後も制約が多くなる校舎建て替え工事の状況に対応し、「HOSEI2030 教学改革推進アクションプラン」に配慮した学習環境支援を継続していくことが望まれる。

なお、近年の高等教育動向を踏まえた全学的な教学改革事項の増加に伴い、教育開発支援機構としての業務（センターに属さない業務）も増加し、機構長に業務比重や責任がやや集中しているきらいがある。このまま機構としての業務量が増加し続けるのであれば、従前のままの体制では将来的に機構運営に支障をきたすことも考えられる。例えば、各センター長を副機構長としたり、機構内の再編により各キャンパス 1 名程度の若手の副機構長を配置したりするなど、機構長を補佐しうる執行部体制を検討することも一案である。機構の業務が増加する現状に鑑み、法人による全学や機構内の人員配置の見直しの中で、機構の執行部の充実をはかっていただきたい。

### 【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

2017 年度春学期から、アンケート項目や実施方法を見直した「学生による授業改善アンケート」が実施されるのに伴い、2016 年度秋学期に理工系学部にて授業内アンケートのトライアルを実施した。その結果、回答率が同年度春学期に比べて向上することを確認できた（理工学部：11.1%→24.0%、生命科学部：16.3%→31.1%、小金井共通：15.3%→27.7%）。なお、懸念されていた Wi-Fi 環境等のトラブルも生じなかった。

また、教員向けに授業の計画・実施・採点といった一連のプロセスに関する情報を一元化した「FD ハンドブック」（Web 版）を公開したほか、学生目線からの授業改善の一環として「学生による授業モニター」制度の先行実施や、アカデミック・サポートサービスの多摩キャンパスでの出張サービスも実施した。

そのほか、「FD 学生の声コンクール」の一環として、教職員も対象とした「FD 川柳」を実施し、より広く授業改善に関する声を集める取り組みを行った。

### 【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

FD 推進センターでは、「学生による授業改善アンケート」の Web 化による回答率低下という問題を解決するため、それを改善するための複数の施策を行っており、2016 年度大学評価委員会による評価結果への対応は行われている。新たなアンケートが 2017 年度春学期から実施されるのに伴い、それに先駆けて 2016 年度秋学期に理工系学部にてそのトライアルを実施して回答率の向上を検証しており、その取り組みは評価できる。今年度からの全学部対象の新たなアンケートの本格実施による成果とともに、今後とも各 FD プロジェクトの活動の継続による成果に期待したい。

## II 自己点検・評価

### 1 内部質保証

#### 【2017 年 5 月時点の点検・評価】

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会（質保証委員会等）は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2016年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

- ・2016年度は、各学部教学単位の代表者で構成されるアドバイザー・ボード会議を3回開催（教員委員の出席率は、第1回71%、第2回79%、第3回79%）し、意見を伺い、各FDプロジェクトへの助言・提案およびチェックを受けた。
- ・各FDプロジェクトの運営については、11回のプロジェクトリーダー会議を開催し、各プロジェクトの活動や提案事項についての相互チェックを行った。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
特になし	

【この基準の大学評価】

FD推進センターでは、各学部からの代表者で構成されるアドバイザー・ボード会議の年3回の開催によって教員委員から意見を聴取し、各FDプロジェクトへの助言・提言およびチェックを行うことで、内部質保証活動が適切に行われていると認められる。また、各プロジェクト・リーダーが年11回にわたって会議を開催し、活動や提案事項についての相互チェックを行っていることも、高く評価できる。

2 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①教員の質の維持・向上に取り組んでいますか。

S A B

(～400字程度まで) ※教員の質の維持・向上のためにどのような取り組みが行われているか概要を記入。

教育開発支援機構FD推進センター全体、センター内のプロジェクト、各プロジェクトの連携による取り組みとして、教員の質的向上を図るための方策を実施し恒常的な検証を行っている。各プロジェクトの方策は、以下のとおりである。

- (1) FD計画プロジェクト：教育の質的向上に向けた全学的活動の推進のための情報収集、分析、施策の企画・立案・提案。
- (2) FD調査プロジェクト：「学生による授業改善アンケート」の実施・改善、アンケート結果の集計・分析、報告書の発行。GPAの活用方法の検討と提案。
- (3) FD開発プロジェクト：具体的な支援のための方法・ツールについての情報収集、分析、情報提供および提案。具体的には、法政教員の輪の記事公開、FDイベントビデオの収録および公開。
- (4) FD推進プロジェクト：新任教員オリエンテーション、新任教員セミナー、教職員研修、授業相互参観、シンポジウム・セミナー等の企画・実施、「法政大学教育研究」の編集・発行、各学部等における取り組みの支援、学生FDスタッフ活動の支援。
- (5) FD広報プロジェクト：FD学生の声コンクール・FD川柳の開催、HP・関連冊子による情報発信（FDハンドブックWEB版、「学習支援ハンドブック」、「FD学生の声コンクール新聞」、FD推進センターNewsletter等）。

さらに、アカデミック・アドバイザー（英語ネイティブ講師）による教員へのアカデミック・サポートサービス（マンツーマンレッスンおよびミニ講座）を3キャンパスで実施した。そのほか、2016年度には、学生目線からの授業改善の一環として「学生による授業モニター」制度を先行実施し、2017年度も継続して主に新任教員を対象に実施していく予定である。

また、授業改善アンケートのWeb化に伴い、従来のアンケート結果の提示方法を変更し、要望により各学部教授会等へのフィードバックを早くできる方式に変更した。

【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・「学生による授業改善アンケート」の回答率向上に資するべく、アンケート項目を見直した新たなアンケートを、2017年度春学期より授業内にWebで実施することが2016年度第17回学部長会議にて承認された。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・新たな「学生による授業改善アンケート」を実施するのに先だって、理工系学部にて授業内アンケートのトライアルを実施した。
- ・授業改善アンケートの蓄積データに基づく、3キャンパス毎の科目区分別マトリクス（配当学年や授業規模の適切性）の作成に取り組み始めた。2017年度中に成果物を公表する予定である。
- ・学生目線からの授業改善の一環として「学生による授業モニター」制度を先行実施した。
- ・教員向けに、授業の計画・実施・採点といった一連のプロセスに関する情報を一元化した「FDハンドブック」（Web版）を公開した。
- ・「FD学生の声コンクール」の一環として、教職員も対象とした「FD川柳」を実施した。
- ・多摩キャンパスでの利用を増やすため、アカデミック・サポートサービスの出張サービスを実施した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各イベント告知資料
- ・2016年度春・秋学期GPCA集計表（学部、大学院、専門職大学院）
- ・2015年度期末「学生による授業改善アンケート〈期末〉」全学集計結果報告書
- ・2016年度春・秋学期「学生による授業改善アンケート〈期末〉」全学集計結果（学部・大学院）
- ・2016年度授業相互参観実施状況報告書
- ・法政教員の輪 第16回～第25回 (<http://fd-handbook.ws.hosei.ac.jp/>)
- ・FDハンドブックWEB版 (<http://fd-handbook.media.hosei.ac.jp/>)
- ・学生による授業モニターチラシ
- ・「法政大学教育研究」（第7号）
- ・「学習支援ハンドブック2016」
- ・「FD学生の声コンクール新聞」
- ・「FD推進センターNewsletter」（第16号～第21号）
- ・アカデミック・サポートサービス告知資料

## （2）特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
特になし	

## （3）現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度春学期から、アンケート項目や実施方法を見直した「学生による授業改善アンケート」が実施されるのに伴い、回答率の向上を実現させるべく、各プロジェクトが連携して学内にアンケートの実施を周知していく予定である。また、学部・研究科が独自にアンケートの集計結果を回答学生に対して公開できる機能を実現することで、教育のさらなる質的向上を果たしていきたい。
- ・2016年度に開発した「FDハンドブック」のコンテンツを拡充していく予定である。

## 【この基準の大学評価】

FD推進センターでは、教員の質の維持・向上のため、複数のFDプロジェクトの取り組みと相互の連携とにより、様々な施策を継続して実施・推進しており、高く評価できる。また、施策の効果を高めるために方法の変更や新しい試みを行っている点も、大変優れている。さらに、「学生による授業改善アンケート」の回答率を向上させるため、項目や実施方法を見直したアンケートを2017年度春学期より授業内にWebで実施することになり、大きく改善していくものと期待される。

このほか、アカデミック・サポートの実施や「学生による授業モニター」制度の先行実施、授業改善アンケートのフィードバックの方式変更、「FDハンドブック」（Web版）の公開、学生・教職員を対象とした「FD川柳」の実施などの幅広い取り組みは、教員の質的向上に資するものとして評価できる。

## III 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準	教員・教員組織
------	---------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

現状の課題・今後の対応等	<p>「学生による授業改善アンケート」のWeb化に伴い、各学部によりばらつきがあるが、回答率が全学平均 6.2%に留まっている。アンケートの結果自身は、紙ベース実施時と比較して特段の変化は見られないが、回答率が低いことは授業改善のために有効であるとは言いがたい。経年変化を見る上では、アンケート項目、実施方法などの年度途中の変更は適切ではないため、2017年度春学期実施に向けてアンケート項目、実施方法など抜本的な変更を学部長会議に提案する。</p>
年度末報告	<p>教授会執行部による点検・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学生による授業改善アンケート」の実質化と回答率の向上のため、アンケート項目の見直し及び実施形態の変更案を策定し、第7回学部長会議で提案を行った。その後、学部長会議およびアドバイザーボード会議での意見を踏まえ、第14回学部長会議に第二次提案を行い、第17回学部長会議で承認され、2017年度春学期から新たな方式で実施することとなった。</li> </ul> <p><b>【2017年度春学期から実施することになった全学アンケートの概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でのWebアンケート実施を基本とする。ただし、大人数授業など授業の特性上授業内実施が困難な授業や、アンケート実施日当日に欠席した学生については、従来通り授業外での実施も可とする。</li> <li>・全学共通アンケート項目は（「教員の工夫」、「主体的な学び」、「理解度」、「満足度」、自由記述）の5項目とする。</li> <li>・独自質問の追加を可とし5分程度の回答時間で不足すると判断される場合は、各学部、研究科で回答時間の延長等を含めた対応をご配慮願う。</li> </ul>

### 【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

2017年度春学期からはじまる、「学生による授業改善アンケート」の実施方法の改善について、その回答率を上げるため各プロジェクトが連携して周知させていくことや、アンケートの集計結果を回答学生へ公開できる機能を実現させる方向で模索しており、今後の期待される。

## 市ヶ谷リベラルアーツセンター

### I 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

#### 【2016年度大学評価結果総評】

FD推進センターでは、「学生による授業改善アンケート」のWeb化による回答率低下という問題について、複数の現実的に可能なかぎりの施策を行っており、2015年度大学評価委員会による評価結果への対応は行われている。ただし回答率自体は、アンケートがこれまで果たしてきた役割に見合うほどには回復しなかったため、2017年度春学期に実施するアンケートから抜本的な変更を提案するという今後の対応を含め、十分な対応を行ったものと評価できる。今度も継続して各FDプロジェクトと「学生による授業改善アンケート」の成果に期待したい。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、「カリキュラム・フレームワーク」の修正および各分野の再配置案がまとまり、2015年度大学評価委員会による評価結果への対応は充分であると認められる。今後は関連する各学部の承認を得て、2017年度から実施できる具体的な内容が検討され、目的とするカリキュラムの体系化が適切に協議されることが望まれる。

小金井リベラルアーツセンターでは、「国際化に対応できる英語力の強化」についてカリキュラム変更の可能性も含めて協議が継続しており、また「理系基礎科目の点検・強化」については現状を把握する点検作業が進められている。2015年度大学評価委員会による評価結果への対応は充分行われているが、今後も対応を継続し「国際化に対応できる英語力の強化」と「理系基礎科目の点検・強化」においてより具体的な施策の検討が行われることを期待したい。

学習環境支援センターでは、部局職員による「相互連携の創意工夫」が可能な組織文化を生かし、ピアネットの可視化など学生の学習環境支援を充実する活動を行い、市ヶ谷キャンパスの「校舎建替え工事」についても適切な動線確保に尽力しており、2015年度大学評価委員会による評価結果への対応状況は高く評価できる。今後も制約が多くなる校舎建て替え工事の状況に対応し、「HOSEI2030 教学改革推進アクションプラン」に配慮した学習環境支援を継続していくことが望まれる。

なお、近年の高等教育動向を踏まえた全学的な教学改革事項の増加に伴い、教育開発支援機構としての業務（センターに属さない業務）も増加し、機構長に業務比重や責任がやや集中しているきらいがある。このまま機構としての業務量が増加し続けるのであれば、従前のままの体制では将来的に機構運営に支障をきたすことも考えられる。例えば、各センター

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

長を副機構長としたり、機構内の再編により各キャンパス 1 名程度の若手の副機構長を配置したりするなど、機構長を補佐しうる執行部体制を検討することも一案である。機構の業務が増加する現状に鑑み、法人による全学や機構内の人員配置の見直しの中で、機構の執行部の充実をはかっていただきたい。

**【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】**（～400 字程度まで）

4 年越しの課題であったカリキュラム体系化に関して、具体的な科目の再配置・基礎（「基盤科目」）から応用（「リベラルアーツ科目」）、発展（「総合科目・教養ゼミ」）という形のカリキュラム構造の構築・科目名称変更などを行い、当初の予定通り、2017 年度から新カリキュラムを施行することとなった。

**【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】**

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、カリキュラムの体系化に関して、具体的な科目の再配置や基礎（「基盤科目」）から応用（リベラルアーツ科目）、そして発展（「総合科目・教養ゼミ」）という形のカリキュラム構造構築のため科目名称の変更などを行い、2017 年度春学期より新カリキュラムによる授業が開始されることになっており、2016 年度大学評価委員会による評価結果への対応は充分行われていると評価できる。今後は関連する各学部の承認を得て、修正した「カリキュラム・フレームワーク」に基づいて各科目の内容が適切であるかどうかの検証を行い、本来の目的であるカリキュラムの体系化が適切に協議されることを望みたい。

**II 自己点検・評価**

**1 内部質保証**

**【2017 年 5 月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会（質保証委員会等）は適切に活動していますか。  はい  いいえ

**【2016 年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】** ※箇条書きで記入。

- ・ 全体的な質保証活動は、運営委員会で行われている。
- ・ 分野別の質保証活動は、各分科会及び科目別運営委員会で行われている。特に英語分科会では独自の内部質保証委員会を置いている。また、「法政学への招待」・キャリア関連科目・学部別「基礎ゼミ」については、独自の運営組織による質保証が行われている。
- ・ 授業以外の教育プロセス（履修指導など）の質保証は、学部で行われている。それらの質保証における必須・オプションのプロセスを項目化し、チェックシートにまとめることで、「質保証の可視化」を行っている。
- ・ 2013 年度から「内部質保証委員」を置き、上記の各質保証組織（運営委員会、7 分科会、6 学部）から提出された現状分析チェックシートの内部監査を行っている。そこで出された、疑問点・改善点の指摘をうけて、各質保証プロセスはその改善を図る。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独自作成の「現状分析シート」につき、項目等を再点検し、より精密なものとした。</li> <li>・ 2015 年度内部質保証委員会において出された意見を基に、改善事項の達成具合を経年で可視化することとした。</li> </ul>	

**【この基準の大学評価】**

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、運営委員会では全体的な質保証活動が行われ、各分科会および科目別運営委員会でも分野別の質保証活動が行われている。また、各学部によって授業以外の教育プロセスの質保証が可視化され、運営委員会および各分科会・学部の質保証活動をチェックする「内部質保証委員会」も設置されて「現状分析シート」項目の再点検や改善事項の達成具合の経年的な可視化にも努めており、全体として厳格に運用されていることは高く評価できる。

**2 教育課程・学習成果**

**【2017 年 5 月時点の点検・評価】**

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
①幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S A B
<p>(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。 市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、0 群から 5 群の科目群からそれぞれ万遍なく科目履修をすることで、多岐の分野に亘る教養が身につけられるようなカリキュラム編成をおこなっている。 さらに、2017 年度よりカリキュラムの抜本的な再編を含む体系化された新カリキュラムを運営していくこととした。</p> <p><b>【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 従来「基礎科目」として一括されていた ILAC 各科目群を、ナンバリング 100 番台の〈基盤科目〉、200 番台の〈リベラルアーツ科目〉、300 番台の〈総合科目・教養ゼミ〉として再編し、より体系的に教養教育科目を学べる体制を整えた。またこれに伴い、総合科目の運用について新たなルールを策定し、科目の性質やありかたをより明確化した。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016 年度カリキュラム委員会議事メモ</p>	
②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	
<p>(～400 字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。 初年次教育については、0 群に設置されている「基礎ゼミ」等により、原則各学部が担っている。また、人文分科会には大学生として必要なリテラシー能力や論文作成能力を育てる「文章論」という科目を設置している。</p> <p><b>【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 従来の「基礎科目」を「基盤科目・リベラルアーツ科目」に分けて体系化したことによって、「基盤科目」においてより初歩的・導入的な教育が実現することが期待される。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・市ヶ谷基礎科目シラバス</p>	
③学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 0 群に置かれている「キャリアデザイン入門」「就業力養成講座」は、キャリア教育プログラムと連携して、具体的・実践的なキャリア支援教育科目である。この科目では、ディスカッションやグループワークなどを通して、課題発見・問題解決等の能力を涵養している。</p> <p><b>【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 2016 年度に設置されたキャリア教育プログラム運営委員会にセンター長が委員として出席し、就業力 GP 終了後のキャリア教育の運用や課題等について討議・検討を行った。なお、上記キャリア教育支援科目は、新カリキュラムの 100 番台「基盤科目」内に置くこととした。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリア教育プログラム運営委員会議事録</p>	
2.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S A B
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・学生の履修指導は、学部の履修要項と、市ヶ谷リベラルアーツセンター発行の冊子版シラバス（各科目のシラバスの要約を記載した冊子）と、全学共通仕様の Web シラバスで行っている。 ・全般的な、履修説明を学部ガイダンスで行うと共に、英語分科会では学部ガイダンスの場で独自の履修説明を行っている。また、保健体育分科会では、学部執行部に依頼して学部ガイダンスに必要な事項を反映させて行うケースと、その場において独自に履修説明を追加するケースが共存している。その他、特別なガイダンスが必要な科目においては、各科目担当者が初回の授業内でのガイダンスを行っている（例；サイエンス・ラボ A・B、スポーツ総合演習）。 ・窓口での履修指導は、各学部窓口と市ヶ谷リベラルアーツセンター事務局が共同して対応している。各科目には、専任教員の科目責任者を配置し、必要に応じて、科目責任者による指導も行う。保健体育分科会では、保健体育課窓口でも履修指導を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



・市ヶ谷基礎科目シラバスなど	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスによる指導方針を明示し、個々の教員はオフィス・アワーを設定して個別指導を行っている。また、各分科会はそれぞれ独自の学習指導体制を整えており、基礎ゼミ、法政学、キャリア教育関連科目のそれぞれの科目においても、それぞれを主管する組織体が独自に、適切な学習指導を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・オフィス・アワー学生向け掲示</p>	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスにおける<b>【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】</b>を明示することで、学生の学習時間を確保することに努めている。この項目の記載については2016年度にすべての科目に関してシラバスチェックを行い、その指示が適正に行われていることを確認した。これに加えて、各分科会、基礎ゼミ担当学部、キャリア教育関連科目担当者がそれぞれに独自の方策をとっている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・授業担当者宛シラバス執筆依頼文書</p>	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別授業における新たな授業形態の導入状況を把握すると共に、学生にもそれが理解されることを目指し、2014年シラバスから、新たに「授業の概要と方法」の欄にPBL（問題または課題解決型授業）・グループワーク・プレゼンテーションの有無を記入項目として設定した。その結果、現在では多くの科目でこれらの方法を導入している。</li> <li>・2017年度より実施される新カリキュラムにおいて、「総合科目」内に演習形式の「教養ゼミ」を設置し（2年次以降履修のため運用は18年度～）、少人数によるアクティブラーニング授業を実現させることとした。</li> <li>・分科会単位で行われている特筆すべき取り組みは、以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>社会科学分科会では、科目ごとの教育方法・内容の独自性が強いこと、授業形態に関する取り組みは科目責任者を中心に科目ごとに行っている。その中で、特に2017年度から「法学Ⅰ・Ⅱ」が教職科目化されることに伴い、初学に対する法学基礎の教育の充実に向けて、①法律学の一般的・包括的内容、②日本国憲法の基礎、③国際法の基礎の3つを柱として含んだ内容構成に科目全体で取り組むこととした。</li> <li>自然科学分科会では、「サイエンス・ラボA・B」において、班分けすることによってグループで課題に取り組む環境を設定し、アクティブラーニングによる教育効果の向上に努めている。</li> <li>英語分科会では、国際文化学部生を対象に、リスニングの自己学習を促すために、インターネット上の無料リスニング教材を紹介するハンドブックを配布し指導している。また、エッセイライティングの手引きとなるハンドブックも補助教材として使用している。</li> <li>諸語分科会では、独自に編集し作成したマルチメディア教材等を用いて、外国語を通して異文化を理解するようにテーマを設定してディスカッションさせる（ドイツ語）、AV資料を適宜活用しながら学生の関心に沿った授業運営を行う（スペイン語）、授業における対面授業とeラーニングを利用した授業外学習を組み合わせたブレンド型学習を逐次拡大する（中国語）、視聴覚授業内容の年次別区分を新たに実施する（フランス語）、1年次授業で統一教科書を用いリレー方式の授業運営を行なう、また授業支援システムに副教材をアップロードして授業外学習に役立てる（朝鮮語）等、言語ごとの特性と実情に合わせた多様な試みが行なわれている。</li> <li>基礎ゼミ（文学部）では、高校生を大学生にするべく、主体的な学びの姿勢を修得させるために、プレゼンテーションやディスカッション、グループワークを積極的に採り入れる授業形態にしている。</li> <li>「法政学への招待」（自校教育）では自分の通う大学について知る新しい科目として、オムニバス形式でその都度適切な講師のキャスティングを行う一方で、常に授業責任者も参加することで、科目としてのつながりを維持できるように努めている。毎回、授業の最後にクリッカーを使った小テストを行い、学習内容を確認させている。更に最終回の授業では、グループワーク形式で授業内容に基づいた大学の将来に対する提言を作成し、優秀な提言には総長が賞を与えることで大学に対する貢献の場を提供する。学期末の試験は「法政学検定」とし、合格者すなわち単位取得者には特製の「検定合格証」を授与している。</li> </ul> </li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>キャリア教育関連科目では、独自に作成したビデオ教材を用いて、大学で学ぶことが将来の仕事にどう役立っているのかを理解させたり、グループディスカッションでテーマ設定をして意見交換をさせたりするなど、学生の参加意識を高めるようにしている。また 2013 年度には就業力を構成するコンピテンシーを測るために独自に開発した測定テスト (HAT) を受講者に対して実施し、インターンシップの新方式として考案した、企業との提携によるビジネスコンテストへの受講生の参加など、授業の内外で動機付け・スキル取得・スキームの実践を図り、科目の持つ達成指標への到達度向上と同時に指標そのもののレベルアップに役立っている。</p>	
<p><b>【2016 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。  総合科目「自然史」では、東日本大震災の被災地南三陸における農林水産業・雇用やコミュニティ形成・復興の現状や課題などをテーマに、教室での座学と共同研究、現地でのフィールドスタディ、その成果報告を一年かけて行い、「南三陸フィールドスタディ報告書」という冊子にまとめた。これは、2018 年度より運用される「教養ゼミ」(総合科目内に設置)の試験的な試みという側面も持ち、その運用方法や成果について極めて有益な示唆をもたらすものであった。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。  ・自然史報告書</p>	
<p>⑤それぞれの授業形態(講義、語学、演習・実験等)に則して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>(~400 字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。  講義科目については、過多・過少受講者授業それぞれが少数ながら存在しており、人数の適正化を図る必要性はかねてより課題となっていた。2017 年度から施行される新カリキュラムにおいては、この問題にも配慮した設計となっており、一年次のクラス授業の枠組みを改編し、また多くの科目を基盤・リベラルに再編したため、受講人数の適正化に少なからず寄与することが期待される。  語学に関しては、一クラスの定員を設定し、質の高い語学教育を行っている。  演習・実験科目に関しても、定員制を採用する科目が多く、適正な受講者数を実現している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。  ・2016 年度カリキュラム委員会議事メモ</p>	
<p>⑥シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入(取組例: 執行部(〇〇委員会)による全シラバスチェック等)。  ・2013 年度の事務局による所定フォーマットのチェックを経て、2014 年度からは、新任教員の記述については各分科会委員長が内容をチェックすることとした。0 群「基礎ゼミ」(文学部)、3 群「サイエンス・ラボ A・B」、5 群「スポーツ総合演習」「法政学への招待」(自校教育科目)・キャリア教育関連科目では、運営委員会や担当者全員でシラバスの確認・検証を行っている。  ・2015・16 年度はすべての科目について、主に<b>【授業計画・成績評価の基準・授業外に行うべき学習活動】</b>の三項目についてシラバスの確認・検証を行い、必要に応じて担当者にシラバスの修正依頼をし、適正化に努めた。  ・2017 年度シラバスについては、新カリキュラム施行を控え、やはりすべての科目について科目責任者による確認・検証を行い、必要に応じて修正依頼を行った。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。  ・第三者確認依頼文書</p>	
<p>⑦授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入(取組例: 後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。  ・担当教員に、新年度シラバス入力時に、当該年度の授業シラバスに追加した「(事) 後シラバス」項目の入力を依頼し、シラバス各項目の達成度の自己評価を数値化して測定している。ただし、今年度に関しては、2017 年度開始の新カリキュラム移行に伴い、多くの科目で名称や内容の変更がなされたため、実施を見合わせた。2017 年度以降はこれを再開する。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。  特になし</p>	
<p>2.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っている。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。  ・シラバスに「成績評価基準」を設定し、学生に公開することで公平性を担保している。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。



セメスター毎に、試験実施方式のアンケートを実施し、個別授業の成績評価法を「平常点・授業内試験・試験・レポート」に大別して把握すると共に、分野別に集計し、運営委員会における審議の後、更に分科会・学部と共有することで、検証を行っている。

- 毎年G P分布を分野別・学年別・学部別に解析し、その結果は運営委員会を通じて分科会・学部で共有することで、横断的な成績評価の適切性を検証している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・ILAC 運営委員会資料

## 2.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

①成績分布の状況を把握していますか。

はい  いいえ

【データの把握主体・把握方法等】※箇条書きで記入。

- 前年度の学年別・分野別・科目別・学科別の成績分布を集計し、運営委員会で検討後、分科会・学部と共有することで、成績分布及びEスコア（試験放棄）の割合を検証している。
- 自然科学分科会におけるオムニバス形式授業の「サイエンス・ラボA・B」では、全体的な成績の分布傾向を把握しており、授業間でGPAに偏りがある時には兼任講師も含めた担当教員全体に周知されている。
- 諸語分科会の一部の言語では統一試験を実施することによって市ヶ谷全体の成績分布を把握している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・ILAC 運営委員会資料

②学生の学習成果を把握・評価していますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(学習成果測定方法例:アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。

基本的に、成績評価に基づき学習成果を測定している。また、授業改善アンケートの「4. 授業で身についたこと」についての分野別集計結果に基づいて、学生の達成感のチェックも行っている。

また英語分科会では、TOEFL-IPT(R)を利用し、学生の英語力の推移を把握している他、個別授業においては、学生の事前・中間レポートと最終レポートの比較からの成果の測定や、リアクションシートを利用した成果の確認が行われているケースが多く見られる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

## 2.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

- 毎年授業改善アンケートの「3. 平均予習・復習時間」「4. 授業で身についたこと」を、科目別・分野別に集計し、運営委員会における審議の後、更に分科会・学部と共有することで、検証を行っている。
- 卒業生アンケートの分野別の満足度について ILAC として独自の解析を行い、学科単位で比較し、それに対応するカリキュラム上・教育方法上の問題の有無を検証している。2016年度のデータについては、特に大きな改善点は発見されなかった。
- 「法政学への招待」(自校教育)およびキャリア教育関連科目では、定期的に開催される運営委員会で教育成果の検証を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・ILAC 運営委員会資料

②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。

S  A B

【利用方法】※箇条書きで記入。

- 前年度の授業評価アンケートの各設問について、分野別・科目別に集計し運営委員会において検証すると共に、分科会・学部と共有することで、更なる検証を促している。
- 各教員にはシラバス入力項目として「学生による授業改善アンケートからの気づき」を設定し、授業改善アンケートに基づく改善内容の公開を義務づけている。ただし、「法政学への招待」(自校教育)では、オムニバス形式であり、平準化して書くことが難しいと思われるため、既成の授業改善アンケートは実施していない。その代わりに、リアクションペー

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

パーを毎回書かせてフィードバックしているほか、学期末試験の際に独自アンケートを実施し、それらを集計・分析して受講学生の現状把握や授業の改善に活用している。そうした受講生の声をまとめて、大学のWEB上で紹介している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・ILAC 運営委員会資料

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2017年度より施行される新カリキュラムの構築が最重要の特記事項である。教養教育におけるカリキュラム改革としては市ヶ谷教養教育運営協議会発足以来の抜本的な大改革であり、懸案であった教養教育カリキュラム構造を体系化する枠組みを実現した。	

## (3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・新カリキュラムの運用に伴う具体的な問題点を精査し、改善する。
- ・カリキュラム体系をより厳密・精緻なものとするために、新カリキュラムの修学成果を検証する。

## 【この基準の大学評価】

### ①教育課程・教育内容に関すること (2.1)

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、従来の「基礎科目」を2017年度より「基盤科目」「リベラルアーツ科目」「総合科目・教養ゼミ」に再編し、多岐な分野にわたる教養が万遍なく履修でき、学習のレベルごとに科目を選択できる新カリキュラムに編成されたことは、豊かな人間性を涵養するうえから高く評価できる。

初年次教育・高大接続については、「基盤科目」の導入により初歩的・導入的な教育への配慮が適切に行われている。キャリア教育についてはセンター長がキャリア教育プログラム委員会に出席して課題等の検討を行うとともに、「基盤科目」内にキャリア教育支援科目を置くことも決定しており、その成果が期待される。

### ②教育方法に関すること (2.2)

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、学生の履修指導が適切に行われ、英語分科会や保健体育分科会が独自の履修説明やガイダンスを行っていることは評価できる。学生の学習指導もシラバスのなかで指導方針を明示し、個々の教員がオフィスアワーを設定して適切に行われている。また、シラバスのなかに「授業外に行うべき学習活動(準備学習等)」が明示されたことで、学生の学習時間を確保するための方策がとられ、その指示の適正履行の確認も行われていることは評価できる。

さらに、多くの分科会や科目で、教育上の目的を達成するための効果が期待できる新たな授業形態の導入に取り組んでいることは高く評価できる。なお、2017年度から施行される新カリキュラムのなかで、講義科目の過多・過少受講者授業の解消に配慮した設計もなされており、その効果が期待される。シラバスの適切な作成やそれに沿った授業の履行についても検証が行われていて評価できる。

### ③学習成果・教育改善に関すること (2.3～2.5)

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、シラバスに明示された「成績評価基準」および個別授業の成績評価方法の区分把握と分野別集計、そして分野別・学年別・学部別のG P分布の解析によって、成績評価と単位認定の適切性を検証していることは高く評価できる。また、集計した学年別・分野別・科目別・学科別の成績分布を各分科会・学部と共有して検証し、自然科学・諸語分科会では成績分布の把握に向けた独自の取り組みを行い、成績評価に基づいて学習効果が定期的に把握されていることは評価できる。

さらに、学生による授業改善アンケートの科目別・分野別集計および卒業生アンケートの分野別満足度の解析を行い、組織的な学習効果の検証を行っていることは評価できる。なかでも、「学生による授業改善アンケートからの気づき」がシラバスに設定されたことで、授業改善内容の公開を義務づけしていることは高く評価できる。

## 3 教員・教員組織

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。 はい いいえ

【市ヶ谷リベラルアーツセンター執行部の構成、分科会の名称・役割・責任体制】※箇条書きで記入。  
 ・執行部は正副市ヶ谷リベラルアーツセンター長並びに学務部長・事務主任により構成されている。  
 ・人文・社会・自然・情報・英語・諸語・保健体育の各分野を統括する分科会には委員長、各科目には科目責任者をおいている。  
 ・学部の特化した基礎科目（一部の「基礎ゼミ」）については、該当学部の教授会主任を科目責任者とするとし、責任の所在の明確化を計っている。  
 ・分科会・学部によって、以下のような責任体制を整えている。  
     自然科学分科会では「サイエンス・ラボ運営委員会」を設置している。  
     英語分科会では兼任教員との連絡を担当する「ゾーン責任者」学部との連携を担当する「学部担当者」、更に「質保証委員会」、「カリキュラム委員会」が設置されている。  
     法政学の運営は「法政学運営委員会」で行われ、正副委員長をおいている。  
     キャリア関連科目については、「キャリア教育プログラム運営委員会」を新たに設置し、必要な役割分担を行うこととしている。  
     法学部では「基礎教育連絡会議」が設置されている。  
     文学部では学科ごとに「基礎ゼミ」の質保証活動を行っている。  
     経営学部では「教養教育担当者会議」「英語教育担当者会議」が設置されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・規程および規程細則（内規）など

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切な教員組織を編制しているか。

①学部（学科）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 はい いいえ

(～400字程度まで) ※リベラルアーツセンターの提供するカリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。  
 教育開発支援機構長・正副センター長・分科会委員長・「基礎ゼミ」科目責任者を含む市ヶ谷6学部教授会執行部主任によって構成される運営委員会、人文・社会・自然・情報・英語・諸語・保健体育の各分野に科目責任者、およびそれを統括する分科会委員長を持つ分科会、「法政学への招待」を管理運営する法政学運営委員会、キャリア教育に関わるキャリア教育プログラム運営委員会などを置き、カリキュラムの実質的な責任を負っている。  
 また、新カリキュラムの具体的な科目内容や運用方法等について審議検討するカリキュラム委員会（木原前々センター長が運営委員会内プロジェクトとして設置）を月に一度行い、2017年度新カリキュラム施行の実現を可能とした。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・規程および規程細則（内規）など

3.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）等内のFD活動は適切に行われていますか。 S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。  
 ・授業改善アンケートを分野別・言語別・学部別等に集計し、その集計結果をFDの素材として各分科会・学部で共有している。  
 ・3種類の授業参観（相互授業参観、新人研修としての授業参観、ビデオカメラを用いたセルフ授業参観）を設定し、各分科会・学部の状況に合わせた形式で実施している。  
 ・センター内に内部質保証委員会を設置し、質保証についての検討を適宜行っている。  
 ・分科会による専任・兼任合同のFD懇談会の開催。

【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

・  
 【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。  
 ・各分科会で毎年行われる兼任講師会の折に、FD懇談会を開催し、専任・兼任間で授業における工夫や学生対応などについての情報を共有することとした。  
 ・分科会ごとに単年度の重点目標を設定し、年度末にその成果を検証することとした。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・内部質保証委員会議事メモ

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

市ヶ谷リベラルアーツセンターの執行部は正副センター長および学務部長・事務主任によって構成され、各分科会には委員長、各科目には科目責任者を置き、学部にて特化した ILAC 科目については教授会主任を科目責任者とし、組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしている。また、全体のカリキュラムについては運営委員会、分科会のカリキュラムについては各分科会、各科目のカリキュラムについては科目責任者が実質的な責任を負うことになっており、責任の所在が明確になっている。FD 活動については、授業改善アンケートの集計結果が分科会・学部で共有され、複数の授業参観も各分科会・学部の状況に合わせた形式で実施され、内部質保証についても委員会を開催して検討されていて評価できる。

III 2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教員・教員組織
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検評価活動用の「現状分析シート」の見直しを行う。</li> <li>分科会、科目ごとの FD 活動をより活発にすべくその方途を検討する。</li> <li>3D 教育システムスタッフ会議に代わり、キャリア関連科目を管轄する「キャリア教育プログラム運営委員会」の適切かつ円滑な運営を行う。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>独自作成の「現状分析シート」につき、項目等を再点検し、より精密なものとした。</li> <li>分科会ごとに毎年行われる兼任講師会の折に、FD 懇親会を開催し、専任・兼任間で授業における工夫や学生対応などについての情報を共有した。</li> <li>「キャリア教育プログラム運営委員会」にメンバーとしてセンター長が出席し、適切なキャリア教育のための検討を行っている。</li> </ul>
評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		2017 年度のカリキュラム体系化改革に向けて、「基盤科目」「リベラルアーツ科目」「総合科目(教養ゼミを含む)」のそれぞれについて、科目名称、科目数、コマ数などについて具体的に確定していく。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	「基盤科目」「リベラルアーツ科目」「総合科目(教養ゼミを含む)」のそれぞれについて、科目名称・科目数・コマ数などを具体的に確定し、2017 年 4 月より新カリキュラムの運用をスタートするに至った。
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		後シラバスについては、全担当教員に入力依頼をしているものの、入力率は残念ながら 50% に満たない。今後、その方式の変更も含めて、実質的な自己点検が可能となるような方策を検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	2017 年度新カリキュラムスタートに伴い、多くの科目で再編・改廃が行われ、新旧科目の対応が複雑かつ煩瑣となったため、今年度に限り後シラバスの記入を見合わせることにした。新カリキュラムに沿って、実質的な自己点検が行われるよう、今後検討していく必要がある。
評価基準		成果

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

現状の課題・今後の対応等		2017年度より実施予定の、体系的な新カリキュラムの構築に伴い、学位授与方針の修正・改訂が必要になると思われるので、各分科会で検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	学位授与方針に則したカリキュラムマップおよびツリーを作成し、可視化を実施した。学位授与方針そのものの見直しは検討した結果、今後、必要に応じて行うこととした。

### 【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、2017年4月より新カリキュラムの実施に向けた各科目の名称・科目数・コマ数を確定し、FD活動への積極的な取り組み、学位授与方針に則したカリキュラムマップおよびツリーの作成・可視化を実施するなど、現段階で可能なかぎりの取り組みを行っている点は高く評価できる。

今後、新カリキュラムの成果を検証し、その結果を受け止め、新たな施策が打ち出されていくことを期待したい。

## 小金井リベラルアーツセンター

### I 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

#### 【2016年度大学評価結果総評】

FD推進センターでは、「学生による授業改善アンケート」のWeb化による回答率低下という問題について、複数の現実的に可能なかぎりの施策を行っており、2015年度大学評価委員会による評価結果への対応は行われている。ただし回答率自体は、アンケートがこれまで果たしてきた役割に見合うほどには回復しなかったため、2017年度春学期に実施するアンケートから抜本的な変更を提案するという今後の対応を含め、十分な対応を行ったものと評価できる。今度も継続して各FDプロジェクトと「学生による授業改善アンケート」の成果に期待したい。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、「カリキュラム・フレームワーク」の修正および各分野の再配置案がまとまり、2015年度大学評価委員会による評価結果への対応は充分であると認められる。今後は関連する各学部の承認を得て、2017年度から実施できる具体的な内容が検討され、目的とするカリキュラムの体系化が適切に協議されることが望まれる。

小金井リベラルアーツセンターでは、「国際化に対応できる英語力の強化」についてカリキュラム変更の可能性も含めて協議が継続しており、また「理系基礎科目の点検・強化」については現状を把握する点検作業が進められている。2015年度大学評価委員会による評価結果への対応は充分行われているが、今後も対応を継続し「国際化に対応できる英語力の強化」と「理系基礎科目の点検・強化」においてより具体的な施策の検討が行われることを期待したい。

学習環境支援センターでは、部局職員による「相互連携の創意工夫」が可能な組織文化を生かし、ピアネットの可視化など学生の学習環境支援を充実する活動を行い、市ヶ谷キャンパスの「校舎建替え工事」についても適切な動線確保に尽力しており、2015年度大学評価委員会による評価結果への対応状況は高く評価できる。今後も制約が多くなる校舎建て替え工事の状況に対応し、「HOSEI2030 教学改革推進アクションプラン」に配慮した学習環境支援を継続していくことが望まれる。

なお、近年の高等教育動向を踏まえた全学的な教学改革事項の増加に伴い、教育開発支援機構としての業務（センターに属さない業務）も増加し、機構長に業務比重や責任がやや集中しているきらいがある。このまま機構としての業務量が増加し続けるのであれば、従前のままの体制では将来的に機構運営に支障をきたすことも考えられる。例えば、各センター長を副機構長としたり、機構内の再編により各キャンパス1名程度の若手の副機構長を配置したりするなど、機構長を補佐しうる執行部体制を検討することも一案である。機構の業務が増加する現状に鑑み、法人による全学や機構内の人員配置の見直しの中で、機構の執行部の充実をはかっていただきたい。

#### 【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

「国際化に対応できる英語力の強化」については「英語教育改善検討プロジェクト」にセンター長参加のうえの協議を継続するとともに、カリキュラム変更の効果や講義以外のTOEIC、SAなどの有効利用の検討を行う。

「理系基礎科目の点検・強化」については、新シラバス・教科書の導入効果の把握、リメディアル科目の効果の測定、兼任教員を含めた授業参観による講義内容の確認とフィードバックなどを行う。

#### 【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

小金井リベラルアーツセンターでは、「国際化に対応できる英語力の強化」についてカリキュラム変更に伴う効果や講義以外のTOEIC、SAなどの有効利用などの検討を継続し、また「理系基礎科目の点検・強化」について現状を把握するための確認や効果の測定などの点検作業が進められている。2016年度大学評価委員会による評価結果への対応は継続的に行わ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



れているが、今後はより具体的な施策の検討・実施に向けて取り組んでいくことを期待したい。

## II 自己点検・評価

### 1 内部質保証

#### 【2017年5月時点の点検・評価】

##### (1) 点検・評価項目における現状

##### 1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会（質保証委員会等）は適切に活動していますか。 はい いいえ

##### 【2016年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※簡条書きで記入。

- ・運営委員会のもと、自己点検委員会を開催した。
- ・運営委員会は欠席の場合は代理出席を求めており、教員の参加状況はほぼ100%である。
- ・分科会レベルでは集会の他、メールによる授業改善の意見交換を日常的に行っている。
- ・今年度はオブザーバーである情報科学部とも、運営委員会の場と分科会レベルでの情報交換会を実施した。

##### (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
特になし	

#### 【この基準の大学評価】

小金井リベラルアーツセンターでは、運営委員会が中心となって質保証活動を適切に行っており、また各分科会やオブザーバーである情報科学部とも授業改善のための意見交換を行っていることは評価できる。

### 2 教育課程・学習成果

#### 【2017年5月時点の点検・評価】

##### (1) 点検・評価項目における現状

##### 2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。 S A B

(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

- ・教養科目について、3つの「科目群」とそれを細分化した「系」に区分している。
- ・各「系」の科目の履修者数を把握することで、偏りのない履修の検証を行っている。
- ・体育実技科目ではコマごとの受講者数集計で全体把握を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・科目別履修者数集計
- ・受講者数集計（体育）

②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。 S A B

(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

「科学実験ⅠⅡⅢ」「物理学実験」「化学実験」「生物学実験」により、実験レポートの書き方、プレゼンテーション方法の修得をさせている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・該当科目のシラバス
- ・ガイダンスでの資料
- ・「理工学部生のための履修の手引き」

③学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。 S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(～400 字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。  
「キャリアデザイン」「科学技術史」「先端技術・社会論」「技術者倫理」「情報倫理」「文章作法」により、キャリアデザインの修得の他、技術と実社会との繋がりも意識させている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・該当科目のシラバス
- ・ガイダンスでの資料
- ・「理工学部生のための履修の手引き」

2.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S  A B

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・「理工学部生のための履修の手引き」、「生命科学部生のための履修の手引き」において、科目区分ごとの目標を明示している。
- ・英語および諸外国語については、語学ガイダンスを実施しているほか、実験科目のガイダンスや「履修の手引き」の改訂も行っている。
- ・教養科目の履修について、事務部と担当教員との連携による履修指導がおこなわれている。
- ・抽選のある科目について抽選漏れした場合には空きのあるクラスを紹介することで、履修に支障はきたしていない。
- ・自然科学科目ではプレースメントテストの実施により、適切かつ必須な科目履修を行わせる仕組みを持っている。このためのリメディアル科目も 2015 年度より実施している。
- ・実技科目（体育など）では授業内での指導を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「理工学部生のための履修の手引き」
- ・「生命科学部生のための履修の手引き」
- ・「選択語学ガイダンス」実施案内 PPT
- ・(自然科学) 履修指導用 PPT

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S  A B

(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

教養科目としての英語科目、諸外国語科目および実験系科目でレポートの添削指導を行うなど、各科目で具体的な学習指導をしている。人文社会系科目では課題作文を課す・参考資料の紹介をするほか、他の分野に興味のある学生に対して個別指導を行っている。また、海外留学を希望する学生、語学検定の資格を取得したい学生に対して個別相談と学習指導を行っている。

自然科学では TA、チューターも、学習指導全般に活用している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・該当科目のシラバス
- ・(化学実験)「レポートの書き方」「レポートチェック事項」
- ・チューター相談時間記録

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。

S  A B

(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

科学実験では、毎回レポートを課し、レポートに予習・復習を盛り込むことにより、学習時間が確保されている。また、物理実験では、授業時間内提出のレポートと 1 週間後提出のレポートを課し、学習時間の増加を図るとともに、レポート提出の際には試問をおこなうなどして知識の定着を確認している。

英語では多読を推奨し読書の記録を提出させて総語数による学習動機向上を図っている。

リテラシー科目では課題の提示と自己学習（復習用）の資料提供で学習時間増加を促進している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・該当科目のシラバス
- ・(化学実験)「レポートの書き方」「レポートチェック事項」
- ・(実験科目) ガイダンス資料

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。

S  A B

【具体的な科目名および授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・語学教育に関しては、新たな授業形態の取り組みとして、SAプログラムの単位認定を、教養科目の「科学技術コミュニケーション演習」としておこなっている。</li> <li>・英語教育改善検討プロジェクトの設置による英語能力の向上、諸外国語の一部の授業では実験的にアプリを使用して発音指導と作文添削などを行っている。</li> <li>・科学実験では、終了後に話す能力と聞く能力を育成する目的のためにグループディスカッションをおこない、座学重視ではない授業形態の展開に取り組んでいる。</li> <li>・リテラシー科目では座席指定や個人の意見発表を授業に盛り込むなどアクティブラーニングの導入を心掛けている。</li> <li>・体育実技科目では「体力テスト」を実施し、学期末にフィードバックすることで自身の把握を促すとともに集計結果を分科会内で分析している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音指導・作文添削アプリ</li> <li>・体力テスト実施要領、集計結果</li> </ul>	
⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に則して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>講義科目については教室のキャパシティや学習効果測定を鑑みて、必要に応じて受講者制限を行うなどしている。受講者制限については担当教員だけでなく、科目所属の分科会が提案しKLAC運営委員会での適否を検討するなどして、慎重に行うようにしている。</p> <p>語学科目については必修科目を含めて定員を設けており、内容・レベルに適した受講者数を維持するよう、必要に応じてクラス増もして対応している。</p> <p>実験・実習科目については実験器具や実施時間に不足が起らないよう適正人数を保つようなクラス割（時間割設定）を行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>	
⑥シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、全科目（授業）に対して分科会代表によるシラバスチェックを行ったことにより、今年度は新規科目と担当者が変更になった科目についてシラバスチェックを行った。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>	
⑦授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語科目・諸外国語科目では打ち合わせ会で議論されている。</li> <li>・その他の分科会では専任および兼任を含めた担当教員同士の懇談会や業務連絡で検証している。</li> <li>・自然科学分科会では「後シラバス」を実施した。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>	
2.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っている。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生申告による成績評価の調査申請が制度化されている。</li> <li>・英語科目では試験答案の学生への返却をも実施している。</li> <li>・理系教養科目数学系の複数教員担当科目における成績の比率調整など成績基準を打合せている。</li> <li>・英語習熟度別クラス分けによる難易度の不公平感を検討し、その改善策を履修の手引きに反映している。</li> <li>・リテラシー科目では定量的な基準を導入している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修の手引き</li> <li>・(実験科目) 成績判定会議議事録</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

2.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布の状況を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【データの把握主体・把握方法等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語分科会では昨年度作成した英語成績分布のガイドラインを作成し、兼任講師に展開した。</li> <li>・「科学実験Ⅱ」において、全クラスの成績分布の年次推移を集計、担当教員間で共有したほか、試験放棄者の割合も情報共有している。</li> <li>・リテラシー科目では GP 集計結果や出欠情報システムにより試験放棄の実態を把握している。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「科学実験Ⅱ成績分布推移」</li> </ul>	
②学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入 (学習成果測定方法例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。</p> <p>FD アンケートの評価による把握、実技科目では授業内の達成度の確認で行っている。</p> <p>英語科目では TOEIC 成績の集積を行っている。</p> <p>実験科目では、プレゼンや試問により実験内容の理解度・到達度も測定している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEIC 実施結果 (集計)</li> </ul>	
2.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在学生全員参加の 3 回の TOEIC 試験を実施することによって、英語科目の習熟度別クラス運営に活用している。</li> <li>・プレースメントテスト、理系教養科目 (数学・物理) について成績の推移を入試経路別に調査している。</li> <li>・数学では再履修者の成績について追跡調査を行った。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEIC 実施案内</li> </ul>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p><b>【利用方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善アンケートの、学生の自由記述について、求めに応じて学部執行部に展開した。</li> <li>・理工学部では回答した学生の GPA 値と対比できる形で各教員にフィードバックしている。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※ (1) ～ (2) の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・リテラシー科目における ICT スキル能力の達成度の検討を継続する。</li> <li>・リメディアル科目の効果を測定とそれによる改善法の検討を行う。</li> <li>・キャリア教育としてのインターンシップの効果の把握し、奨励する。</li> <li>・数学系科目のシラバスの改定に伴う内容消化度合いの把握とそれによる改善を行う。</li> <li>・TOEIC、SA の有効利用を検討する。</li> <li>・数学の必修化の実質的な効果を分析する。</li> </ul>
--

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



## 【この基準の大学評価】

### ①教育課程・教育内容に関すること (2.1)

小金井リベラルアーツセンターでは、教養科目を3つの科目群とそれを細分化した「系」に区分し、各「系」の科目の履修者数を把握・検証することによって、幅広く深い教養と総合的な判断力を培うことができる教育課程を編成していることは評価できる。また、初年次教育・高大接続については実験科目を充実させているほか、実験レポートの書き方やプレゼンテーションの方法を習得させるなどの工夫がみられる。さらに、キャリア教育についても適切に複数の科目が配置されており、キャリアデザインの習得のほか、技術と社会との繋がりも意識させていることは評価できる。

### ②教育方法に関すること (2.2)

小金井リベラルアーツセンターでは、様々な方法を駆使して学生の履修指導が適切に行われ、なかでも自然科学科目でプレースメントテストの実施によって適切かつ必須の科目履修を行わせる仕組みをもっているほか、リメディアル科目も継続して実施していることは高く評価できる。

学生の学習指導は、各科目におけるレポートの添削指導、参考資料の紹介のほか、海外留学希望学生や語学検定受験学生への個別指導を行っていることが評価できる。

また、科学・物理実験では予習・復習を盛り込んだレポートの提出、英語・リテラシー科目では相応の課題を出すことで学習時間を確保・増加させるための方策が講じられており、その成果が期待される。

教育上の目的を達成するため、語学・実験・リテラシー・体育実技の各科目で様々な形の新たな授業形態の導入に取り組み、その一部で検証も行われており、その成果が期待される。

教室の収容定員や学習効果という点から、一部の講義科目で受講者制限を行っているが、担当教員の判断だけでなく、分科会・KLAC全体でその適否を検討し、また語学・実験・実習科目では適正な受講者数の維持に努め、教育効果に配慮していることは評価できる。

シラバスが適切に作成されているかどうかについては、すべての科目について分科会代表がシラバスチェックを行って検証し、また授業がシラバスに沿って行われているかどうかについては英語・諸語科目では打ち合わせ会、その他の分科会では懇談会や業務連絡、自然科学分科会では「後シラバス」の実施によって検証しており、評価できる。

### ③学習成果・教育改善に関すること (2.3～2.5)

小金井リベラルアーツセンターでは、成績評価の調査申請が制度化され、科目によって試験答案の返却、成績の比率調整による成績基準の打ち合わせ、習熟度別クラス分けによる不公平感の改善策の履修手引きへの反映、定量的な基準の導入によって、成績評価と単位認定の適切性を確認している。また、いくつかの分科会や科目において成績分布ガイドラインの作成、成績分布の年次推移の集計結果を教員間で共有し、試験放棄者の実態も把握し、成績分布の状況を把握している。

学生の学習効果については、授業改善アンケートの評価のほか、実技科目では授業内での達成度の確認、英語科目ではTOEIC成績の集積、実験科目では実験内容の理解度・達成度の測定を通して把握されており、評価できる。さらに、TOEIC試験を利用した習熟度別クラス運営、入試経路別の成績調査、再履修者の成績の追跡調査によって、学習成果を組織的・定期的に検証していると認められる。

学生による授業改善アンケート結果については、学生の自由記述を各学部執行部の求めに応じて把握できるようになっており、理工学部では適切なフィードバックが行われているが、さらに組織的利用が促進されるように期待したい。

## 3 教員・教員組織

### 【2017年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい  いいえ

【小金井リベラルアーツセンター執行部の構成、分科会の名称・役割・責任体制】※箇条書きで記入。

執行部：センター長、副センター長（各1名）

分科会：英語、人文・社会、保健体育、諸語、リテラシー、自然科学の6つの分科会

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



各分科会代表を中心に、時間割・担当者・コマの配置について責任を担っており、シラバスチェックなど具体的施策を通じて質保証も行っている。

カリキュラムについて、学部執行部も委員として参加する運営委員会の審議・承認事項にしていることで、KLACによる教養教育への責任体制を敷いている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・小金井リベラルアーツセンター規程

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切な教員組織を編制しているか。

①学部（学科）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい  いいえ

(～400字程度まで) ※リベラルアーツセンターの提供するカリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。教養教育担当の教員数については、理工学部教授会、生命科学部教授会およびKLACの三者で審議している。不足する場合は学部執行部により理事会に要望を出している。このようにして、KLAC・学部の責任分掌を明確にしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

3.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）等内のFD活動は適切に行われていますか。

S  A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・教員の授業相互参観：一部科目で授業公開を行った。
- ・FDアンケートに加えて独自アンケートを実施（「科学実験」）
- ・履修者数推移調査（「科学実験」）

【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・授業相互参観：理工学部については秋学期期間に実施、生命科学部では春学期・秋学期期間で実施

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・授業参観報告書
- ・公開科目一覧表（自然科学）
- ・（科学実験）独自アンケート
- ・（科学実験）履修者数推移集計

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

## (3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・小金井キャンパスを構成するもう1つの学部＝情報科学部のKLACへの正式参加に関して具体的なアジェンダを提示する。
- ・教員の授業相互参観に関して全科目参観を目標として、現在参観非実施である科目を対象として拡大する。

## 【この基準の大学評価】

小金井リベラルアーツセンターは規程に基づき執行部を構成し、各分科会に代表を置いて時間割・担当者・コマ配置についての責任を担い、シラバスチェックなどの質保証活動も行っている。カリキュラムについては、学部執行部が参加する運営委員会で審議・承認することで、組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしている。

また、教養教育担当の教員数については、理工学部・生命科学部教授会およびKLACの三者で審議することになっているが、現状の課題にも上げられているように、小金井キャンパスの一員である情報科学部のKLACへの参加を協議・改善することが望まれる。

FD活動については、一部科目での教員の授業相互参観、学生による授業改善アンケートに加えての独自アンケート、履

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

修者数の推移調査を行っており、評価できる。

### III 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教員・教員組織
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小金井キャンパスを構成するもう1つの学部＝情報科学部のKLACへの正式参加と、その役割・効果を明らかにする。</li> <li>・教員の授業相互参観を兼任教員担当科目に拡大する。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<p>情報科学部のKLACへの正式参加：理工学部、生命科学部と情報科学部は教養科目の共通部分が存在しないため、情報科学部の参加に伴う事務量の増加等デメリットが懸念されている。情報科学部のKLAC正式参加については今年度、運営委員会へのオブザーバ参加により、相互のカリキュラムや設置科目の相違の確認やそれに基づく意見交換を行った。今後はこれに加えて、一部分科会レベルで行われている情報交換のための懇談会を拡充していく。</p> <p>教員の授業相互参観の兼任教員への拡大：授業相互参観科目の公開数を増加させ、英語・数学科目においては兼任教員の担当科目も参観を実施した。次年度は全科目参観を目標として、他の科目への拡大を図る。</p>
評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・リテラシー科目におけるICTスキル能力の達成度を検証する。</li> <li>・リメディアル科目の効果を測定し、KLACの役割を検討する。</li> <li>・キャリア教育としてのインターンシップの実態を検証する。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<p>リテラシー科目におけるICTスキル能力の達成度の検証：ICTスキル達成度の検証法は担当教員により異なるが、演習中心の講義であるので、講義中または講義後に課す課題の出来具合により達成度を検証している。また、理解度の低い学生には課題提出締切り後の講義内で復習させ、再提出させるなどを行っている。</p> <p>リメディアル科目の効果を測定しKLACの役割を検討する：リメディアル科目の履修状況と関連科目の相関関係の調査が可能かどうかについて事務部と協議した。物理については、リメディアル科目受講学生の対応正規科目の成績の推移を数年間にわたって調査する。そのためのデータ収集を開始した。</p> <p>キャリア教育としてのインターンシップの実態を検証する：マナー研修、キャリアスキルアップ研修を実施し、社会人としての基礎力を身に付ける機会を提供している。そのあと、実際的に企業等で実習後、その成果に関心ある学生を対象としてプレゼンテーションを行っている。また、キャリアに対する意識を深めるため、定期的にインターンシップの説明会の案内等のチラシを配布している。</p>
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学系科目のシラバスの改定に伴う内容消化度合いの検証を行う。</li> <li>・TOEIC3回実施の効果を検証する。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<p>数学系科目のシラバスの改定に伴う内容消化度合いの検証：担当教員に、シラバスの内容の消化度合いに対するアンケートを実施し、その結果を集約した。</p> <p>TOEIC3回実施の効果を検証：学生へのインタビュー調査を行い、必ずしもTOEICの3回実施が動機づけにつながっていないことが分かった。TOEICの回数や点数をあげることで自体に動機はなく、英語を実際の生活で使用し、将来役に立つことを認識することでTOEICスコアをあげる努力をし始めるようである。</p>
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績データに関するKLAC独自の分析を行い、その効果を検討する。</li> <li>・数学の必修化の効果を検証する。</li> </ul>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<p>成績データに関するKLAC独自の分析：KLAC独自の分析は未実施である。成績データをどのような形で評価するかから検討しなければならない。</p> <p>数学の必修化の効果を検証する：理工学部3学科において、期末試験を統一問題として、素点分布による検討を行った結果、評価A+の者の大幅減少なども見られるが、成績上位者の数に大きな変わりがないことなどが確認できた。必修化により成績の平均が下がることは予測</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	できていたため（苦手な者も履修する為）、今後の経年推移で実質的な効果の分析を図りたい。
--	---

**【2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】**

小金井リベラルアーツセンターの運営において、情報科学部の KLAC への正式参加は重要な問題である。それに向けて、運営委員会へのオブザーバー参加、カリキュラムや設置科目などの意見交換、一部分科会における懇談会の開催などの取り組みが行われているのは、高く評価できる。教員の授業相互参観が兼任講師の担当科目にも拡大したことは優れた取り組みであり、全科目参観が実現されることを期待したい。また、リテラシー科目、リメディアル科目、キャリア教育としてのインターンシップにおいても様々な取り組みが行われ、教養教育の促進が図られていることは評価できる。さらに、数学系科目の内容消化度、TOEIC 3 回実施の効果についての検証が行われているが、成績データの分析や数学必修化の効果の継続的实施・検証によって、学習効果が上がることを期待したい。

**学習環境支援センター**

**I 2016 年度 大学評価委員会の評価結果への対応**

**【2016 年度大学評価結果総評】**

FD 推進センターでは、「学生による授業改善アンケート」の Web 化による回答率低下という問題について、複数の現実的に可能なかぎりの施策を行っており、2015 年度大学評価委員会による評価結果への対応は行われている。ただし回答率自体は、アンケートがこれまで果たしてきた役割に見合うほどには回復しなかったため、2017 年度春学期に実施するアンケートから抜本的な変更を提案するという今後の対応を含め、十分な対応を行ったものと評価できる。今度も継続して各 FD プロジェクトと「学生による授業改善アンケート」の成果に期待したい。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、「カリキュラム・フレームワーク」の修正および各分野の再配置案がまとまり、2015 年度大学評価委員会による評価結果への対応は充分であると認められる。今後は関連する各学部の承認を得て、2017 年度から実施できる具体的な内容が検討され、目的とするカリキュラムの体系化が適切に協議されることが望まれる。

小金井リベラルアーツセンターでは、「国際化に対応できる英語力の強化」についてカリキュラム変更の可能性も含めて協議が継続しており、また「理系基礎科目の点検・強化」については現状を把握する点検作業が進められている。2015 年度大学評価委員会による評価結果への対応は充分行われているが、今後も対応を継続し「国際化に対応できる英語力の強化」と「理系基礎科目の点検・強化」においてより具体的な施策の検討が行われることを期待したい。

学習環境支援センターでは、部局職員による「相互連携の創意工夫」が可能な組織文化を生かし、ピアネットの可視化など学生の学習環境支援を充実する活動を行い、市ヶ谷キャンパスの「校舎建替え工事」についても適切な動線確保に尽力しており、2015 年度大学評価委員会による評価結果への対応状況は高く評価できる。今後も制約が多くなる校舎建て替え工事の状況に対応し、「HOSEI2030 教学改革推進アクションプラン」に配慮した学習環境支援を継続していくことが望まれる。

なお、近年の高等教育動向を踏まえた全学的な教学改革事項の増加に伴い、教育開発支援機構としての業務（センターに属さない業務）も増加し、機構長に業務比重や責任がやや集中しているさらいがある。このまま機構としての業務量が増加し続けるのであれば、従前のままの体制では将来的に機構運営に支障をきたすことも考えられる。例えば、各センター長を副機構長としたり、機構内の再編により各キャンパス 1 名程度の若手の副機構長を配置したりするなど、機構長を補佐しうる執行部体制を検討することも一案である。機構の業務が増加する現状に鑑み、法人による全学や機構内の人員配置の見直しの中で、機構の執行部の充実をはかっていただきたい。

**【2016 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）**

今年度も当センター運営委員会（運営委）を年 10 回開催し、学内関係部局職員の相互連携を深めてきた。運営委では毎回、参加全部局が学習環境モニタリングのための所管データを持ち寄り、環境改善のための課題解決案を参加者全員で検討、実行している。

上記総評への主な対応結果は次の通りである。①ピアネット・正課外教育に関する活動の成果を一旦整理し、各方面からの評価や意見を広く受け入れるため「ピアネットシンポジウム」を開催し、「成果と評価」について確認した。②市ヶ谷校地建替工事フェーズⅡへの対応として臨時的移動動線を運営委主導で立案・整備、安全に配慮しつつ運用を管理した（2017 年 2 月、工事の進捗とともに終了）。③当センター長が「HOSEI2030 アクションプラン」アクティブラーニング作業部会の座長となり、部会委員の教職員とともに同センター関係者が協力して然るべき具体策等について検討し、最終報告

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

書にとりまとめた（2017年3月）。

## 【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

学習環境支援センターでは、学生への学習環境支援のための複数の施策が実施されており、2016年度大学評価委員会による評価結果への対応は行われている。引き続き、市ヶ谷キャンパスの建替え工事に伴う移動動線の運用管理や、「HOSEI2030アクションプラン」への協力に配慮した学習環境支援を継続していくことが望まれる。

## II 自己点検・評価

### 1 内部質保証

#### 【2017年5月時点の点検・評価】

##### (1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

① 質保証活動に関する各種委員会（質保証委員会等）は適切に活動していますか。

はい  いいえ

【2016年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

- ・教育開発支援機構長、図書館長、学習ステーション長、プロジェクト・リーダーおよび学習支援を担う各事務部局職員が出席する学習環境支援センター運営委員会を年10回開催し、質保証についての検討を行っている。
- ・学習環境支援センター長が教育開発支援機構企画委員会（年10回開催）に出席して活動報告を行うことにより、同企画委員会委員である3キャンパス教員、同機構に属する他センターからの意見聴取、相互評価がなされている。

##### (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
特になし	

#### 【この基準の大学評価】

学習環境支援センターでは、教育開発支援機構長、図書館長、学習ステーション長、プロジェクト・リーダーおよび学習支援を担う各事務部局職員が出席する学習環境支援センター運営委員会で質保証についての検討を行っている。また、上部組織である教育開発支援機構企画委員会に出席し、3キャンパス教員および機構傘下の他センターからの意見聴取とともに相互評価を行っていることは、高く評価できる。

## 2 教育研究等環境

#### 【2017年5月時点の点検・評価】

##### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

① 学生の主体的な学習を支援するための取り組みを行っていますか。

S  A  B

【学生の主体的な学習を支援するための取り組み】※箇条書きで記入。

- ① 当センター「学習ステーション」が中心となり、各部局における正課外教育活動の連携強化を図っている（ソフト環境整備）。
- ② 当センター運営委において、建替工事に伴う学習環境の悪化などに対し適切な対応が速やかにできるよう、各部局の連携強化を図っている（ハード環境整備）。
- ③ 本学の教学改革の方向や進捗を把握しつつ、その推進に寄与できる体制の拡充を図っている（教学連携強化）。

【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ① 「法政大学第2回ピアネットシンポジウム」（2016年12月3日）の開催、学生主導による2017年度版『HOSEI学び場ガイド』の企画・制作、発行に対する活動支援。
- ② 市ヶ谷校地55・58年館建替工事フェーズII（～2017年4月）「富士見坂校舎ラーニングコモンズ・図書館間臨時移動動線」の設置、運用、保全、管理。
- ③ HOSEI2030アクションプラン作業部会（教学改革推進4～「アクティブラーニング・実践知育成の学び」）への積極的な関与（同作業部会の座長は当センター長、事務局は当センターを所管する教育支援課）。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ①大学ホームページ広報資料 (<http://www.hosei.ac.jp/koho/photo/2016/170112.html>)、2017年度版『学び場ガイド』
- ②2016年度第1回学習環境支援センター資料・議事録、2016年度第5回学習環境支援センター資料・議事録
- ③『HOSEI2030 アクション・プラン報告』(2017年3月9日) 教学改革推進グループ4 : 「アクティブラーニング・実践知育成の学び」63-74 ページ

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

特になし
------

【この基準の大学評価】

学習環境支援センターでは、「学習ステーション」を中心として正課外教育活動を積極的に行い、および市ヶ谷キャンパスの建替え工事によって学習環境に影響を与えないよう適切で速やかな対応のために、各部局との連携強化を図っている。また、教学改革の推進に寄与できる体制を拡充するため教学とも連携強化を図り、学生の主体的な学習を支援するための取り組みを行っていることは、高く評価できる。

III 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準	教育研究等環境
現状の課題・今後の対応等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ヶ谷キャンパス建替工事が最も制約条件の多い「フェーズⅡ」に移行し、学習環境への悪影響が多面で顕在化すると見られることから、運営委における議論の重心を工事対応にシフトさせていく(建替工事に特化したハード面での対応)。</li> <li>・「ピアネットコンピテンシーチェックシート」による評価データ分析システムの運用が始まりソフト面での対応として一つの区切りが見えたことから、その関連諸活動を統括してきた会議体「正課外教育プロジェクト」のこれまでの活動内容を文書化しつつ、活動の経緯及びノウハウの整理を行う(これまでのソフト面での対応を一旦整理)。</li> <li>・「HOSEI2030 教学改革推進アクションプラン」が「アクティブラーニング(実践知育成の学び)」の新規策定を目指していることから、その進捗を踏まえつつ当センターの対応のあり方について具体的に検討し、必要に応じて具体策を検討する。</li> </ul>
年度末報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ヶ谷キャンパス建替工事に伴う南北移動動線確保のため、図書館内に臨時的移動動線を整備し、図書館の環境維持と移動の安全性を担保しつつ適正に運用した(建替工事に特化したハード面での対応)。</li> <li>・2012年に設立した「ピアネット」が「正課外教育プロジェクト」の活動を通じ、正課外教育のしくみへと発展してきた経緯やその成果について、全ての実績を整理するとともに内容を広く公開し、各方面からの評価・意見を真摯に受け入れる機会とするため、「ピアネットシンポジウム」を開催した。同シンポジウムには、ピアネットに関わる本学教職員のほか他大学の専門家等が参加し、闊達な意見交換を行った。今後、正課外教育のしくみをピアネット活動に集約していく方向性を確認し、正課外教育プロジェクトの活動を一旦整理した。(これまでのソフト面での対応を一旦整理)。</li> <li>・学習環境支援センター長が「HOSEI2030 教学改革推進アクションプラン・アクティブラーニング(実践知育成の学び)作業部会」の座長となり、部会委員の教職員とともに同センター関係者が協力して然るべき具体策等について検討し、最終報告書を取りまとめた。</li> </ul>

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。



学習環境支援センターでは、市ヶ谷キャンパスの建替え工事に伴う南北移動動線確保のため、速やかにその動線を整備していることは、学生の学内移動の安全性や学習環境を保証する上からも高く評価できる。また、継続して行われてきた「ピアネット」の成果を検証するため「ピアネットシンポジウム」を開催し、意見交換を行うとともに正課外教育プロジェクト活動を一旦整理する機会を得たことは優れた企画であり、今後の取り組みに期待したい。

さらに、学習環境支援センター長が「HOSEI2030 教学改革推進アクションプラン・アクティブラーニング作業部会」の座長となり、部会委員の教職員や同センター関係者と協力しながら具体策などについて検討し、最終報告書を取りまとめたことは教学との連携強化を示すもので評価できる。引き続き、校舎の建替え工事に伴う学生の移動動線の運用管理と「HOSEI2030 アクションプラン」への協力で配慮した学習環境支援を継続していくことをお願いしたい。

## 【大学評価総評】

FD 推進センターでは、「学生による授業改善アンケート」の Web 化による学部間のばらつきや回答率低下という問題について、その実質化と回答率向上のためアンケート項目の見直しや実施形態の変更案を策定し、学部長会議で承認されたことにより、2017 年度春学期より新方式で実施されることになったことは、十分な対応として高く評価できる。今後は新方式での実施によってどのような成果・課題が出てくるのかを把握・検証し、授業改善が促進されることを期待したい。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、カリキュラム体系化改革のため、これまでの「基礎科目」から新たに「基盤科目」「リベラルアーツ科目」「総合科目・基礎ゼミ」への分化により、各科目名称・科目数・コマ数などを策定し、2017 年度春学期より新カリキュラム運用が開始されることは高く評価できる。今後は運営委員会および各分科会・学部での検討を経て、修正した「カリキュラム・フレームワーク」に基づいて各科目の内容が適切であるかどうかの検証を行い、本来の目的であるカリキュラムの体系化が適切に運用されることを望みたい。

小金井リベラルアーツセンターでは、小金井キャンパス 3 学部のうち情報科学部が KLAC に参加していないが、運営委員会へのオブザーバー参加や一部分科会との情報交換を行い、正式参加に向けた協議が加速しており、そうした合意形成への努力を評価したい。また、教育課程や教育方法・成果における様々な取り組みについて検証作業を行っており、教養教育への充実に向けた取り組みに期待したい。

学習環境支援センターでは、市ヶ谷キャンパスの建替え工事に伴う学習環境への悪影響を最小限にするため学生の移動動線を速やかに整備し、安全性に配慮した適正な運用を行っていることは高く評価できる。また、「HOSEI2030 教学改革推進アクションプラン・アクティブラーニング作業部会」に協力して具体策を検討し、最終報告書を取りまとめるなど、教学との連携強化を図っていることも評価できる。なお、これからも続く市ヶ谷校地の建替え工事ではあるが、学生への学習環境支援に向けた様々な取り組みに期待したい。

教育開発支援機構、(FD 推進センター、市ヶ谷リベラルアーツセンター、小金井リベラルアーツセンター、学習環境支援センターとも)それぞれの取り組みはいずれも重要であり、その業務内容はますます肥大化しているように思われる。そこで、学内の人的資源をさらに活用・結集するとともに、委員個々に過剰な負担があればその軽減を検討し、それぞれの活動のさらなる進展に期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。